

いわむら

発行所 岩室村役場
印刷所 巻・北洋印刷KK

No. 54

明るく楽しい家庭。

- 親の争い家庭の不和は、こどもの心を暗くする。
- 親の願いと子どもの望み、互いを知って伸びる家。
- 「これなあに」聞いて子どもは伸びていく。うるさくならず話しましょう。
- 青少年はわが家の希望であり、あすの日本である。
- 感謝の心と自己反省が家庭と社会をきずくもと。



秋 冷 海水浴のシーズン中は、人と車がつなぎわたり、大都会なみのにぎわいを見せた間瀬海岸も、初秋の声を聞くとめっきり淋しさを感じさせる。広い砂浜には老朽化した漁船が横たわり、往時の面影をしのばせる。行き交う人もごく稀れで、大きな荷を背にする老女の姿が大きく傾いた太陽をうけ、長い影を地に落していた。

(写真は9月20日間瀬海岸でうつす)

品種別作付面積

順位	品 種 名	41年作	41年作	40年作	39年作
		付面積	割合	付面積	付面積
		ha	%	ha	ha
1	越路早生	458	33.6	521	542
2	コシヒカリ	161	11.8	178	168
3	越ひびき	152	11.1	58	4
4	日本海	120	8.8	118	130
5	五百万石	84	6.1	39	24
6	ハウネンワセ	73	5.3	36	14
7	ギンマサリ	47	3.4	59	54
8	オオトリ	39	2.8	18	5
9	こがねもち	36	2.6	48	50
10	千 秋 楽	30	2.1	52	53
11	初 祝 も ち	29	2.1	30	41
12	ふじみのり	23	1.6	2	1
	越 楽	17	1.2	74	121
	北陸 52 号	17	1.2	51	66
	そ の 他	78	6.3		
	計	1.364	100.0		

41年熟期区分は早生種60% 中生種35% 晩生種5%である。

年々増える 早・中生種

晩生種はわずか5%

昭和四十一年産米の岩室村水稲品種別作付面積がまとまった。総作付面積は一、三六四ヘクタールで、このうち約三七%の四五八ヘクタールが越路早生で依然トップであるが、三十九年、五四二ヘクタールと、越路早生の作付面積は年々減少し、来年は更に減少が予想されこれに代ってハウネンワセが、三十九年、一四四ヘクタール、四十年、三六ヘクタール、四十一年、七三ヘクタール、第四十二位にのし上がった。また増収ムードにおおられて、ふじみのりが一躍二三ヘクタールの一二位が目される。昨年六位であった越ひびきが今年は一〇〇ヘクタール増えて第三位となり、来年はコシヒカリを超越する勢いにある。

三十九年には、一二一ヘクタールであった越楽が今年は一七ヘクタールに転落した。平均して動かないのが二〇ヘクタールの日本海で四位を保っている。また酒米の五百万石、八四ヘクタールが注目される。晩生種の代表、千秋楽と北陸五二号は年々減少してあわせて四七ヘクタールしかなく、全体の三・三%である。